



難治性高血圧

3剤以上の降圧薬を使用しても血圧が目標に達しない高血圧です。

75歳未満で、130/80mmHg未満
75歳以上で、140/90mmHg未満
が降圧目標です。



通常の高血圧治療で血圧が改善しない場合は、2次性高血圧（腎臓やホルモンの病気）が隠れている可能性もあり、精密検査が必要です。若くて血圧が高い人には、2次性高血圧が隠れていることが多いと言われています。

2次性高血圧がなくても、生活習慣が悪いと、3剤以上の降圧薬を使用しても、血圧コントロールができないことがあります。

血圧が高い状態が続くと、心臓や血管に負担がかかり、様々な病気を引き起こす可能性があります。

主な症状

通常の高血圧同様に、自覚症状はありません。

血圧が非常に高くなると…

- ・頭痛
- ・めまい
- ・動悸
- ・視力のぼやけ
- ・肩こり
- ・疲れやすさ

原因

腎臓

- ・腎実質性

薬剤性

- ・漢方薬
- ・痛み止め（NSAIDs）

内分泌（ホルモン）

- ・甲状腺機能亢進/低下
- ・原発性アルドステロン症
- ・褐色細胞腫

血管性

- ・腎血管性
（大動脈炎症候群、線維筋性異形成）

睡眠時無呼吸症候群

など

治療について

原因精査後

- ・併存疾患の治療（薬、手術）
- ・薬の調整や生活習慣の強化

「家庭血圧」をつける習慣が大切です。

毎朝・毎晩、決まった時間に測定することで自分の血圧傾向を知ることができます。
降圧薬の効果を評価するためにも家庭での測定が非常に有効です。



©鹿児島県ぐりぶー#1043

脳卒中・心臓病等総合支援センターおよび脳卒中・心臓病等相談支援窓口では脳卒中や心臓病についてのお悩みの相談に乗っています。

お気軽にお越しいただくか、メール、電話などでお問い合わせいただけましたら幸いです。

e-mail: sc-shien@kufm.kagoshima-u.ac.jp 電話番号：099-275-6895